

「ことば」から学んだこと

富山市立大泉中学校三年（富山県）

多喜 千陽

私は中学一年のとき、友達に誘われて、裏千家茶道を始めました。二年のときコロナウイルスが流行しはじめ、一年のときのような活動ができず、とても残念でした。が、そんなコロナ禍で、改めて気付かされることがありました。コロナ禍で、お茶やお菓子を出さず、空点前を中心に部活を行っていたとき、正直、楽しいとは思えませんでしたが。そんなときに、「ことば」の一説がふと頭の中をよぎりました。それは「道を修めなお励みつつも、初心を忘れぬように」でした。その「ことば」のおかげで、私をはじめて茶法室に足をふみ入れたときの新しいことに対する、ドキドキ、ワクワクとした気持ちを思い出しました。はじめの頃はあんなに楽しくて、一生懸命茶道に取り組んでいたのに、今ではその面影すら感じられないようになっていました。これでは、はじめたばかりの頃の私に示しがつかないと思いい、もう一度、あの頃のように茶道に打ち込むことができ

ました。

また、他にも「ことば」のおかげで気付くことができたことがあります。私のクラスには毎朝「おはよう」と挨拶してくれる人がいます。そして、普段はあまり笑わないような人も、その人とは笑顔で挨拶をしていました。どうしてだろうと考えていると、一つの「ことば」を思い出しました。それは、「豊かな心で、人々に交わり、世の中が明るく暮らせるように」というものでした。挨拶をしていた人は、豊かで、温かく私たちに接していたので、その人の周りはいつも明るかったのだと思いました。

このように、茶道の「ことば」は普段の日常生活の中でも大きく関わっていると思います。実際にどれだけ「ことば」が大切なものかをたくさん実感してきました。さらに「ことば」の周りは明るく幸せが広がっていることも実感しました。だから、私は「ことば」から学んだことを生かして、毎日を大切にしていきたいと思っています。